
おぼろづきよにおもうこと

森かえで

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おぼろづきよにおもつこと

【Nコード】

N9045A

【作者名】

森かえで

【あらすじ】

もうちよつとだけ、強かったら。あるとき、悲しみに負けないでいられたなら。詩です。

(前書き)

小説ぽいですが詩です。

ぼうぼう、と、闇を照らしたすのはおぼろづき。けどなつみはそれを背にして立っていたんだ。

薄暗い光のなか、いつも冷徹ななつみの顔が、歪んでいつて。

「うそ」

「本当」

やだ、そんなの。

「なつみ」

背中をさすると、青白いほっぺたからぼたぼた涙の粒が落ちる。

初めて聞く、なつみの嗚咽。

初めて抱く、なつみの肩。

はっ、と、した。

肩の、その、細いこと。こんなに頼りない小さな体で、あたしの肩を、ずうっと抱いてきてくれた。

「なつみ」

私は、なつみみたいにきれいに抱き留めてあげられない。

冷徹に向き合ってあげられない。力になれない。

あたしが、もうちょっとだけ。

なつみのほんのヒトカケだけでも、強いなら。

最後まででも、つよく。

やだ、そんなの。

これで、さいじ？

率直に別れを悲しんでくれる人がいるのは嬉しいことよ、ママはそう言ったけど。

あたしは強くありたかった。
最後、こそ。

あの日、泣きすぎて意識をもろろつとさせたあたしを、脇から抱えてひっぱってつてくれた。

幾筋もの涙の線が、かぴかぴになって、細い肩にうつすら汗をかいて。

薄暗く、光を放ってる。あたしに当たって反射する。

注意深くあたしたちの足元を見るしかできなかったなつみ。月、月光。ぼおつとしたばかなあたしが、ずっと独り占めしてて。

見せてあげれたなら。

弱さしかないあたしと月が目を合わせた。

一人見たおぼろづき。胸のずくずくした、痛み。

ああ、なんで？

もう少しだけでも。

強さ、欲しかったのに。

(後書き)

あなたなりにいろんな伏線を感じてもらえれば、嬉しいですよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9045a/>

おぼろづきよにおもうこと

2010年12月5日15時12分発行